

施策項目 1 1 体験活動の推進

[評価結果]

【担当課：社会教育課（義務教育課）】



担当課HP

総合評価	進展あり
-------------	-------------

定量評価 [指標]	C
-----------	---

評点	(a)	(b)	(c)	(d)
評価数	1	0	0	1
d評価となった指標	①			

定性評価 [施策]	進展あり
<p>各道立青少年体験活動支援施設（ネイバル）において安心・安全に施設を利用する体制を整えるとともに、独自に開発した防災プログラムの全6施設での展開や、地域資源や企業のノウハウを活用した新たなプログラム開発を進め、体験活動内容の充実が図られた。また、学校や関係機関への情報提供や、各種SNSや地元紙等を活用した情報発信の拡充により、学校によるプログラム活用の促進を図っており、施策の進展が認められる。</p>	

[施策の推進状況]

【P】・・・「Plan 令和4年度の主な施策」 【D】・・・「Do 主な取組の状況」
 【C】・・・「Check 施策の課題」 【A】・・・「Action 今後の方向」

《課題・背景》	(1) 学校における多様な体験活動の推進 ・道立青少年体験活動支援施設における実践的なプログラムを提供するとともに、学校への情報提供が必要
	(2) 地域の特色を生かした体験活動の推進 ・民間団体等と連携し地域の教育資源を活用したプログラムを開発するとともに、広く情報発信するための工夫が必要

(1) 学校における多様な体験活動の推進		
[P] 次年度へ	<p>①質の高い体験活動に向けた体制整備やプログラムの作成 ②ネイバルにおける防災プログラムの充実</p> <p>①・新型コロナウイルスの感染に係るマスクの取扱いなどの規制緩和に伴う感染対策マニュアルの改訂に併せて、宿泊定員を通常の200名に戻すとともに、各施設における利用者向けの手引を修正するなど、学校が安心・安全に利用できる体制を整備（手引改訂：4月、7月、8月、10月、3月） ・新規プログラムを盛り込んだパイロットプログラム報告書を作成（10月）し、関係機関に周知の上、道教委HPで公開（報告書の公開：3月） ②各ネイバルで、宿泊研修等で利用する学校を対象に、体験活動を通じて自助・共助の意識や態度を育てる「ネイバル防災アクティブ・プログラム（ネイバル防災A・P）」を提供（実施校：小中高17校）</p>	[D]
[A]	<p>①活動報告書や施設のチラシを市町村教育委員会や学校へ提供するとともに、主催事業や体験活動に関する情報等をネイバルのHPやSNSを効果的に活用した発信 ②地域の特性を踏まえた防災プログラムの開発を継続するとともに、生徒指導・学校安全課による「1日防災学校」と学校の宿泊研修における「ネイバル防災A・P」活用との連携</p> <p>①体験活動を推進するためには、新型コロナウイルスの影響で利用を取り止めた学校のほか、これまで利用していない学校への利用促進が必要 ②各学校では、「1日防災学校」を実施しているが、体験活動を通じて効果的に学習を深められるよう、学校に対して「ネイバル防災A・P」の特徴や活用の仕方等を周知することが必要</p>	[C]
(2) 地域の特色を生かした体験活動の推進		
[P] 次年度へ	<p>①ネイバルの指定管理者や地域の民間団体等との連携による地域の教育資源を活用した新たなプログラムの開発と実施 ②閲覧する世代を意識したSNSの使い分けに加え、地元の地方紙等のマスコミを介した情報の発信</p> <p>①縄文文化やアイヌ文化などを扱った地域の特色あるプログラムの実施や、タグラグビーやテントサウナなど施設周辺環境や関係団体、企業等のノウハウを生かしたプログラムを開発・試行（地域の特色あるプログラムの実施：参加者1,214人/28事業、プログラムの開発・試行：78人/4事業） ②全施設において各種SNSや地元紙等を活用した情報発信を実施（Facebook：6施設、Instagram：2施設、YouTube：3施設、地方紙掲載：2施設）</p>	[D]
[A]	<p>①各施設の全職員が運営に参画し、魅力ある施設づくりを協議する所内プロジェクトの立ち上げと推進 ②道民の関心を高める情報コンテンツの工夫や報道機関との効果的な連携</p> <p>①より質の高いプログラムの開発と実施の実現のため、指定管理者と駐在職員の一層の連携や、資質向上を図る体制づくりが必要 ②実施した情報発信の成果や課題を踏まえ、より効果的に活用するための工夫が必要</p>	[C]

[指標の状況及び評価]

指標の内容	基準値	目標値（上段）						進捗率	評価	出典 (調査名等)	実施 主体	調査期 日又は 調査対 象期間	指標の 対象
		実績値（下段）											
		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	(R3)	(R4)						
① 道立青少年体験活動支援施設の利用者数(人)	(H24~ H28 の平均) 233,039	(毎年度) 233,039人以上						42.0%	d	・道立青少年 教育施設利用 統計シート ・青少年教育 施設利用状況 調	道教委	R5. 4. 10	施設利用 者
② 道立青少年体験活動支援施設が実施する主催事業における未就学児(親子を含む)を対象とした事業の割合(%)	(H28) 17.4	(毎年度) 20%以上						120.0%	a	・道立青少年 教育施設月例 報告	道教委	R5. 4. 10	未就学児 対象事業
評価結果	(a) 指標数	(b) 指標数	(c) 指標数	(d) 指標数	定量評価		C						
	1	0	0	1									
新型コロナウイルスの影響により実績値が伸び なかった指標又は低下した指標に対する今後の 取組	① 集団宿泊活動を通じた魅力的な体験プログラムを充実させるとともに、コロナ禍以前に利用していた学校や団体、家族 などが再度ネイバルに足が向くよう、対象に応じた効果的な情報発信により施設の利用を促進する。												
d評価に対する今後の取組	① 令和5年度においては、5月の大型連休以降、感染対策のレベルが下げられたが、年間を通じたプログラム開発や効果 的な広報活動の推進により利用促進を図る。												